

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第191集

# 和田遺跡

長野県佐久市湯原和田遺跡発掘調査報告書

2011.3

佐久市  
佐久市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、佐久市が行う市道U657号線改良工事に伴う和田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 佐久市高速交通課
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地 和田遺跡 (YWD)  
佐久市湯原字和田924外
5. 調査期間及び面積 調査期間 平成21年9月2日～平成21年9月24日  
整理調査 平成22年7月21日～平成23年3月25日  
調査面積 90.26m<sup>2</sup> (開発面積1,200m<sup>2</sup>)
6. 調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭 遺構実測は赤羽根・磯貝、遺物実測は柳沢、トレースは副島が担当した。
7. 本書の編集・執筆は、林・佐々木が行った。
8. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

1. 遺構の略記号は、住居址-Hである。
2. 採図の縮尺は次のとおりである。下記以外の物については採図中にスケールを示す。  
住居址1/80 土器1/4
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。
4. 土層・遺物胎土の色調は、1988年版『新版 標準土色調』に基づいた。
5. 調査区グリッドの、間隔は4×4mに設定した。

## 目 次

例言・凡例・目次
第I章 発掘調査の経緯
立地と経過..... 1
調査体制..... 1
第II章 遺構と遺物
竪穴住居址..... 2
土坑..... 5
抄 錄



## 第Ⅰ章 発掘調査の経緯

### 1. 立地と経過

佐久市は周辺に浅間山・関東山地北端の荒船山・兜岩山・蓼科山・八ヶ岳が連なり、中央には千曲川が横たわっている。千曲川の沖積地と浅間火山の堆積物で覆われた佐久平は、白田の稻荷山を逆三角形の頂点とし、北方に展開している。稻荷山西方には、蓼科山東麓の片貝川・滻川等中小河川流域沖積地と小高い丘陵が形成されている。この一帯は通称「小田切の里」と呼ばれ、中世佐久に縁の深い一遍上人が踊り念仏を佐久ではじめたといわれている（一遍聖絵、京都歡喜光寺蔵）。小田切の里の比定地は、長野市小田切と二か所あるが、和田遺跡は、湯原地積の片貝川に合流する滻川と中沢川に挟まれた蓼科山麓東端の低丘陵上に位置する。この丘陵は、瓜生坂累層が基盤で瓜生坂累層の一部である相浜層がみられ、その上部に大石川スコリア・春日火山岩類がさらにローム層が乗っている。東麓には滻觀音がある。眼下には平安時代の土坑や溝状遺構が調査された家浦遺跡が、東方600mに纏文時代中期後葉（加曾利式と「佐久系土器」）と甲斐型土器がみられる平安時代の住居址19軒等を検出した反田遺跡がある。さらに、反田遺跡の南方500mに弥生時代後期住居址2軒等が調査された勝間原遺跡、隣接して弥生時代後期住居址4軒と奈良時代住居址1軒等が検出された丸山遺跡がある。

今回、佐久市高速交通課が市道U657号線改良工事を行うことになり、佐久市教育委員会が試掘調査を行った。結果、遺構が発見されたため保護協議を行い、記録保存を目的とする発掘調査を行うことになった。

### 2. 調査体制

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長	木内 清	（平成21年6月退任）	
			土屋 盛夫	（平成21年7月就任）	
事務局	社会教育部長	内藤 孝徳	（～平成21年6月）	工藤 秀康	（平成21年7月～）
	文化財課長	森角 吉晴	文化財係長	三石 宗一	
	文化財調査係	林 幸彦	並木 節子	須藤隆司 小林 真寿	
		羽毛田卓也	富沢 一明	神津 格	（～平成21年10月）
		上原 学	井出 泰章	（平成21年10月～）	出澤 力
調査担当者	林 幸彦	佐々木宗昭			
調査員	赤羽根充江 磐貝律子 市川光吉 柏木義雄 河原田三男 大工原達江				
	中山清美 花里佐恵子 堀籠保子 本田慶二 柳沢孝子 橋尾敏雄				



第2図 和田遺跡周辺遺跡位置図 (1 : 10,000)

## 第II章 遺構と遺物

### 検出遺構と遺物の概要

遺構—竪穴住居址 2軒（弥生時代後期 1軒、平安時代 1軒）、土坑 1基（弥生時代後期）

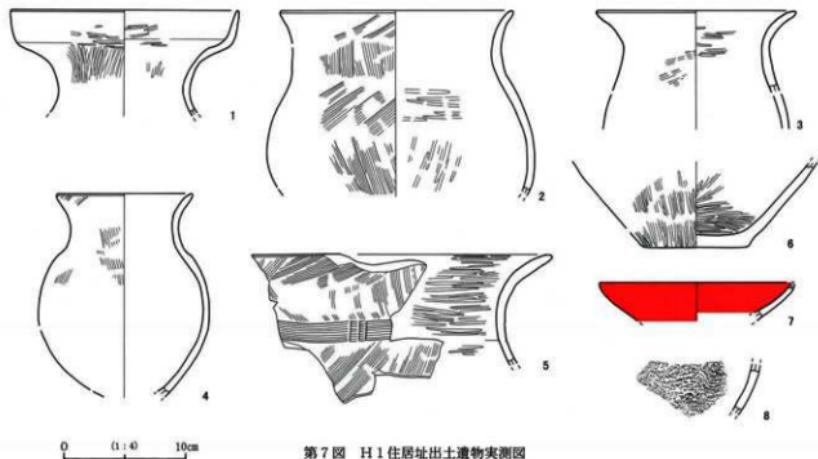
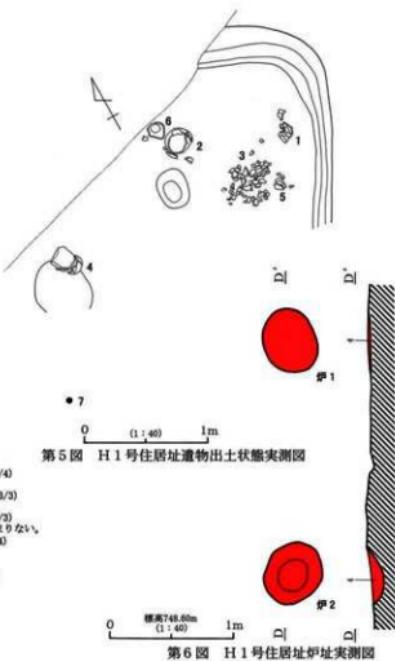
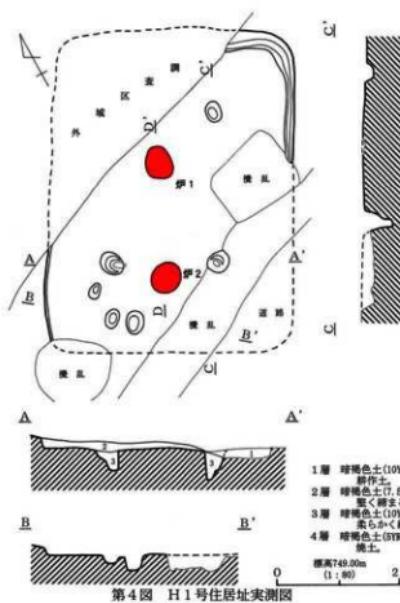
遺物—縄文中期後葉土器、弥生後期土器、土師器、灰釉陶器、近世・近代陶磁器

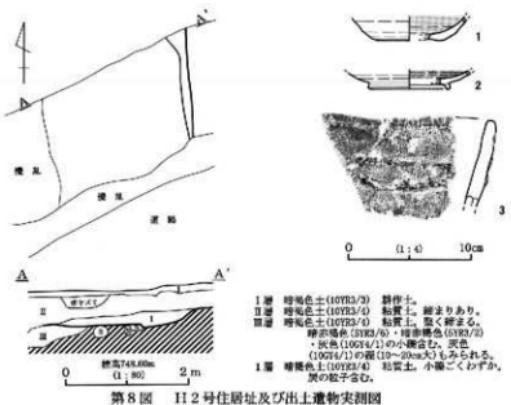
### H 1号住居址

本址は、う・えー3・4グリッドから検出された。住居の南壁から東壁中央部をボヤ炭焼成坑と溝状の搅乱で破壊され、北西部は調査区外に伸びている。隅丸長方形で主軸推定5.4m、北壁検出部0.8m、東壁検出部2m、西壁1.5m、最深の壁残高は西壁で25cmを測る。主軸方位はN-30°-Wを示す。主柱穴P1～P3が、南北2.4m東西1.8mのほぼ長方形に配置されている。P1は径32×24cm深さ14cm、P2は径40×34cm深さ37cm、P3は径40×32cm深さ50cmを測る。南壁よりのP4・P5は、中央でなく少し西壁によっているが、出入り口の施設と考えられる。中央からずれるのは、炉2の設置位置に

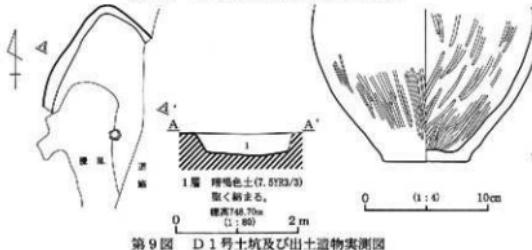


第3図 和田遺跡調査全体図 (1 : 1,000)





第8図 H2号住居址及び出土物実測図



第9図 D1号住居址及び出土物実測図

い。2~4櫛描斜走文が施文されるが、頸部に櫛描斜状文が見られない。6は、底部外面も丁寧にヘラミガキされる。7の高坏?は、内外面赤彩される。本址の時期は、壺頸部が無文様・壺文様の形骸化・壺の球形化傾向から弥生時代後期終末と思われる。

## H2号住居址

本址は、え・お-5・6グリッドから検出された。住居の北部分は調査区外にあり、南・西側は道路と攪乱で破壊されていた。東壁から西へ2mほどの床部分が残存していた。東壁検出部1.8m、最深の壁残高は20cmを測る。調査範囲内では、付属施設は検出されなかった。

出土遺物で図示できたのは、2の内黒土師器壺、3の灰釉陶器皿（または碗）、混入と思われる繩文中期深鉢片のみで、他に土師器小片が十数片みられる。本址の時期は、少ない出土遺物であるが、

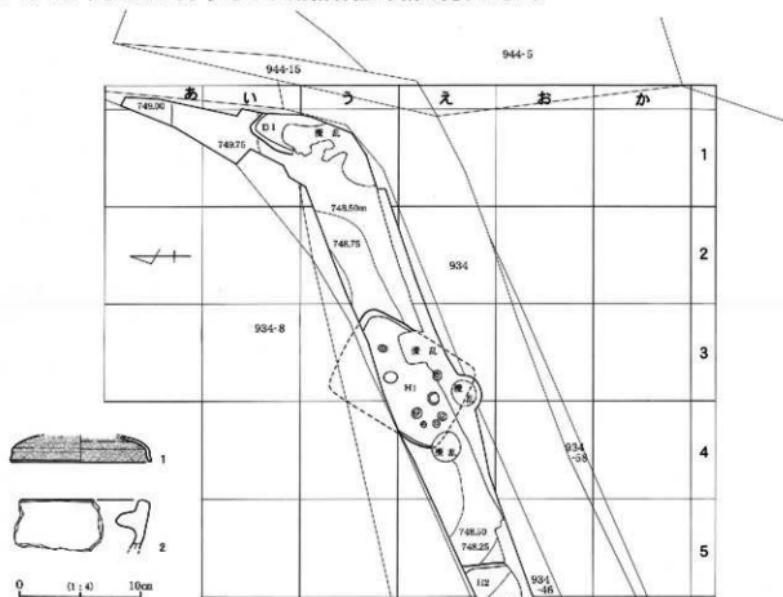
第1表 田邊跡出土土器一覧表

遺物名	No.	種別	基層 石(石)瓦(瓦) 土(土)	厚さ (mm)	内 面	成形・磨削 面	外 面	文様	備考		
									内 面	成形・磨削 面	
H1.1	1	弥生	壺	(18.5)	-	<5.7>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転尖底、縦面内外剥離痕	北東二コーナー付近床面	
	2	弥生	壺	(19.0)	-	<15.2>	ヘラミガキ	櫛削斜走文	完全尖底	縦面内外剥離痕	P1北側尖底
	3	弥生	壺	(16.4)	-	<5.7>	ヘラミガキ	櫛削斜走文	回転尖底	縦面内外剥離痕	P1東側尖底
	4	弥生	壺(付付?)	(11.2)	-	<16.7>	ヘラミガキ	櫛削斜走文	完全尖底	縦面内外剥離痕	P1北壁
	5	弥生	壺	-	-	<12.3>	ヘラミガキ	櫛削斜走文・慶良文(8本、3重上)	破片尖底	P1東側尖底	
	6	弥生	壺	-	8.9	<7.0>	ヘラミガキ	ヘラミガキ、底縁もヘラミガキ	完全尖底	P1北側尖底	
	7	弥生	鉢	(16.0)	-	<5.1>	ヘラミガキ+赤色施彩	ヘラミガキ+赤色施彩	回転尖底	P1北側2の中間床面	
	8	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ	筋文	筋文	P1東側床面	
H2	1	土師陶器	壺	(5.9)	<2.0>	ロクロナデ+黑色施彩	ロクロナデ+底面転曲切り	回転尖底	横出面	北東二コーナー付近床面	
	2	灰釉陶器	壺	(16.4)	-	<9.7>	ロクロナデ+施彩	ロクロナデ+口縁	回転尖底	壺	
	3	陶文	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ+縫波状	粘土	壺	
D1	1	弥生	壺	(7.0)	<12.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ、底縁もヘラミガキ	回転尖底	底面	底面	
グリット	1	灰釉陶器	壺	(11.6)	<2.2>	ロクロナデ+施彩	ロクロナデ+施彩	回転尖底	いい1グリット	いい1グリット	
	2	陶器	はうろく	-	-	-	ナデ+内凹貼付	破片尖底	お6グリット	お6グリット	

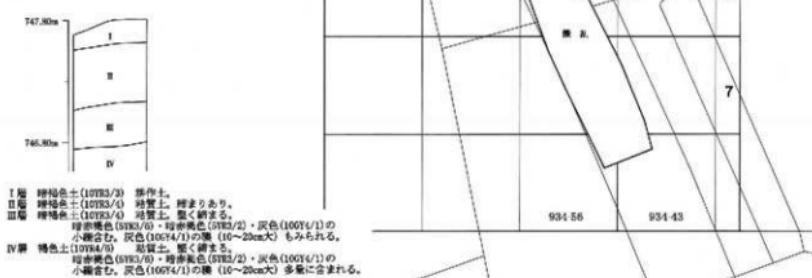
覆土上部検出面から内黒土師器碗が4点ほどあり、9世紀後半～10世紀前半となろうか。

#### D 1号土坑

本址は、いー1グリッドから検出された。南・東側は道路と攪乱で破壊されていた。西壁検出部2m、最深の壁残高は29cmを測る。出土遺物は検出面から弥生後期甕小片と1の甕のみである。内外面よくヘラミガキされている。少なくとも残存部位に文様は見られない。

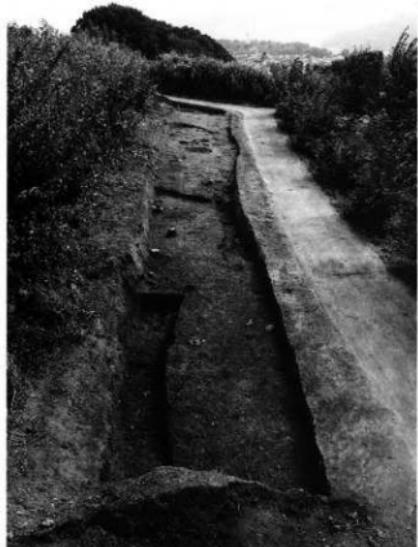


第10図 グリッド出土遺物実測図



第11図 和田道跡基本土層模式図

第12図 和田道跡調査構造全体図 (1:200)



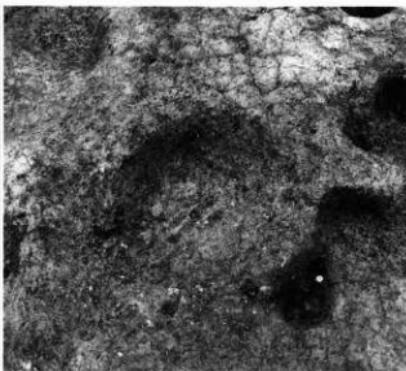
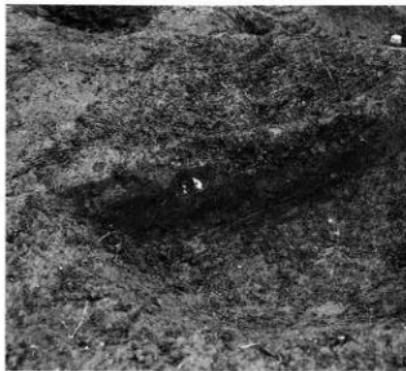
調査区全景（西方より）



調査区全景（東方より）

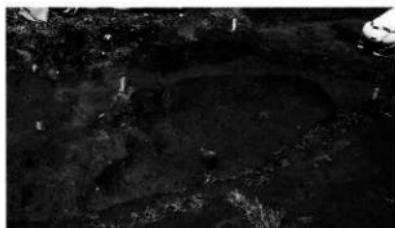


H1号住居址（南方より）

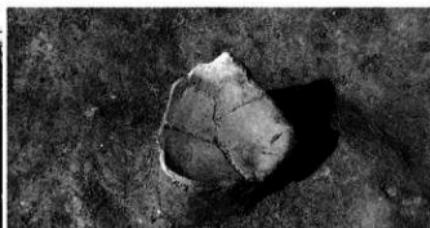




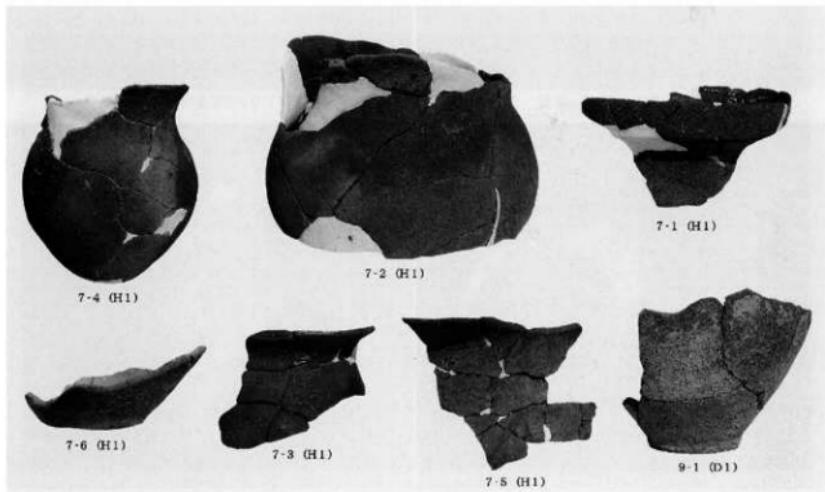
H 2号住居址全景(南東方より)



D 1号土坑全景(東方より)



D 1号土坑遺物出土状況



H 1号住居址・D 1号土坑出土遺物

## 報告書抄録

書名	和田遺跡
ふりがな	わだ
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第191集
編著者名	林 幸彦 佐々木宗昭
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2011. 3. 31
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	和田遺跡（YWD）
遺跡所在地	佐久市湯原字和田924外
遺跡番号	616
経度	36°-11' -17"
緯度	138°-28' -06"
調査期間	2009.9.2～2009.9.24（現地） 2010.7.21～2011.3.31（整理）
調査面積	90.26m <sup>2</sup>
調査原因	市道改良
種別	集落址
主な時代	弥生時代・平安時代
遺跡概要	遺構　堅穴住居址2軒（弥生・平安）　土坑1基 遺物　縄文土器、弥生土器、土師器、灰釉陶器、近世・近代陶器
特記事項	標高740mの高所での弥生時代後期の住居址は、貴重な資料となった。

---

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第191集

### 和田遺跡

2011年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

Tel 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限会社

---

